

旧島根大学と旧島根医科大学の統合から20年 新「島根大学」の歩みを振り返る

column

統合当時を本田元学長が振り返る

統合準備にも携わり、新島根大学の初代学長を務めた本田雄一氏に、当時のお話を伺いました。

Q 統合の準備段階の様子は？

A 大学統合は小泉内閣の行財政改革の一環としての国立大学の組織改革に沿ったものでした。統合準備の大部分は前任学長であった吉川先生の時代に進められました。私はその当時は評議員だったので、「統合準備協議会」の一員として、統合協議に参加していました。統合後の大学名や学長の選出方法、教養教育課程の実施方法等、さまざまな議題についての論議が行われました。専門分野や創設から今日に至る歴史も異なる大学ですので、議論は長時間にわたることも多かったと記憶しています。

Q 当時、印象に残っているエピソードは？

A 新しい大学が発足することになりましたので、新しい学章、大学歌を作成したことです。

統合から一年が経過して、両大学が一つの新しい大学になったことを記念して植樹も行いました。

Q 今後の島根大学への期待は？

A 松江・出雲キャンパス間の距離は、日常的な交流には大きな障害となりません。しかし、それを乗り越えた連携、融合の実現を期待しています。医学領域を有する総合大学として、超高齢化社会となりつつある地域社会の要として、島根大学の存在はますます重要性を増しています。大学憲章が明らかにしている「地域に根差し、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」として、地域における役割・機能を十全に発揮していただきたいです。



本田 雄一
元島根大学長

2003年4月に島根大学長に就任。以降、同年10月の島根医科大学との統合、2004年4月の法人化を経て、2009年3月まで、6年間にわたって学長を務める。専門は植物病理学。

Pick up

大学統合によって実現した主なできごと

医理工農の連携による技術開発

本学医学部と総合理工学部の研究チーム（健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト・骨格系グループ）は、手術中に患者自身から取り

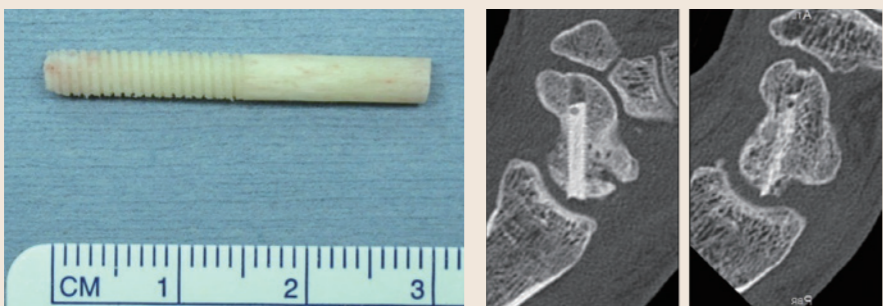


図1：骨ネジ

術直後 術後1年

図2：術後経過（単純CT）

出した骨を、手術室の中で独自開発した特殊な精密加工機を用いネジ形状へ切削加工（骨ネジ：図1）し、骨折部を固定するという新しい骨折治療技術を開発しました。

骨ネジは様々なサイズに作れるので、患者の状態に合わせたテーラーメイド治療が可能です。また骨ネジは周囲の骨と1年程度で完全に同化する（図2）ため、従来の金属ネジの様に骨折治療後にネジを除去する再手術が不要というメリットもあります。

このプロジェクトは県内外の精密加工機製造企業や島根県産業技術センターとの産官学連携事業を経て具現化し、2007年に初の臨床試験を実施しました。これまでに12症例を経験し、概ね良好な臨床成績を得ています。本学発の骨ネジ技術が世界中に広がり骨折治療に役立つことを目標に、プロジェクトは今も進行中です。

人間科学部設置

地域創生に向けた機能強化として、2017年4月に文理融合の「人間科学部」を設置しました。「からだ」「こころ」「つながり」という人間の3つの側面に焦点をあて、健康科学、心理学、社会福祉学という3つの学問分野を核として、人間存在に文理融合的にアプローチすることで、少子高齢化など

地域が抱える様々な課題に取り組みることができる人材を育成していきます。



人間科学部での授業の様子

医学部附属病院の再開発

島根大学医学部附属病院は、1979年に島根医科大学医学部附属病院として開院しました。開院以来30年を経て、ハード・ソフト両面で医療をめぐる環境は大きく変化し、建物の老朽化をはじめ、患者さんのニーズに応じた満足度の高い医療、快適な療養環境を提供することに支障が生じていました。そのため、2008年～2013年にかけて、新病棟の建設、既存病棟及び外来・中央診療棟の改修を行い、病院機能の強化を図ったほか、教育・研究環境も整備しました。



現在の島根大学医学部附属病院

また、地域医療の拠点として、地域医療機関の連携強化も図り、大学病院を中心に、地域の医療機関全体で地域医療を担う体制づくりを進めています。

本年10月に、旧島根大学と旧島根医科大学が統合して20周年を迎えます。統合からこれまでの20年の歩みを振り返ります。

異分野の連携・融合によりさらなる成長・発展へ

2001年6月に文部科学省が経済財政諮問会議に提出した「大学（国立大学）の構造改革の方針」では、「①国立大学の再編・統合を大胆に進める。②国立大学に民間的発想の経営手法を導入する。③大学に第三者評価による競争的原理を導入する。」とあり、単科の医科大学と他大学との統合は避けられない状況にありました。

そのような状況の中、島根大学及び旧島根医科大学の両学長は、統合は研究基盤の強化、学際的分野の研究、法人化に向けて経営基盤の強化等のメリットが大きいとの判断から、統合の検討に着手することに合意し、2002年6月25日に統合合意書の調印に至りました。

2003年10月1日、旧島根大学と旧島根医科大学は統合し、5学部からなる総合大学として、新「島根大学」が発足しました。新島根大学の初代学長には、旧島根大学の本田雄一学長が就任し、新しい学章、学歌を作成しました。

本年は統合20周年を迎え、4月には島根大学ロゴマークのリニューアル、さらに工学系新学部「材料エネルギー学部」の設置と、節目の年になります。20年の歴史とともに、これからの島根大学のさらなる成長、発展を目指して、学生、教職員が一丸となって取り組んでいきます。